

間伐材の利用について

【内容】

中国からの割り箸の輸入が減るとテレビで見ました。そこで、間伐材を利用して、割り箸を作って雇用促進につなげることはできないでしょうか。さらに、間伐材で作ったガードレールもあると聞きました。その他いろいろな利用の仕方があると思うので検討してみてください。

また、間伐をしていない植林も多く見られます。防災面からも間伐をお願いしたいと思います。

【回答】

ご指摘のとおり、割り箸の製造については、中国産割り箸は昨年値上げが実施されたほか、対日輸出禁止の動きなどが報道がされています。市内にもスギ材を用いた割り箸製造業者がいますが、これまで主に国産割り箸は料亭向き等の高級なもので、中国産はコンビニなどの安価なもののニーズへの対応ということになっていたもので、製造コストで大きな課題がある中、今後の需要動向を見極めていく必要があると考えます。

また、その他間伐材の活用については、林道及び作業道の土留めやロックフェンスの支柱利用のほか、堰堤やガードレールにも景観の観点から使用されつつあります。今後も、関係機関と協力し、利用可能な所へは積極的に使用するとともに、様々な分野への利用について調査研究をしていきたいと考えています。

間伐の推進については、市内では毎年 2,000 ヘクタール程度の間伐が実施されていますが、中には間伐が実施されずに荒廃した森林が見受けられるのも事実です。間伐は、森林の多面的機能を発揮させるための重要施策でありますので、県・森林組合・森林所有者等の協力のもと、今後もその推進を図って参ります。

(担当：山村林業振興課)